

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070101106		
法人名	医療法人コスモス		
事業所名	グループホームコスモス長野		
所在地	長野県長野市小島田町字北村沖376番地2		
自己評価作成日	平成21年10月20日	評価結果市町村受理日	平成22年3月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070101106&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人としてあたりまえの暮らしの中で、その人らしい生活の質が保たれるように、最後まで布パンツで過ごせる支援に心がけている事と日中の活動を充実し安眠につながる支援に努めてから、眠剤使用者が一人もいなくなった事です。隣に老健施設、クリニックが併設しており訪問看護と契約し、健康面では安心して暮らしている。四季折々にふれドライブに出掛け季節を肌で感じるように努めています。ホーム周りには公園・学校・畑・住宅等あり毎日の散歩も楽しみであります。ホームには小さな畑もあり、入居者には教えてもらいながら季節の野菜を作ったり、収穫の喜びも共に感じています。入居者、スタッフと共に協力しあい穏やかに暮らしていただけるよう努めています。

事業所周辺は畑、果樹園、公園、住宅、併設老健であり、交通量の多い道路からも離れ、ゆったりと静かに過ごせる居住空間になっていた。のんびりと、その人に応じた散歩ができ、地域住民との会話を楽しんだり、四季折々の花々や果物、遠方には山々を眺められ、自然の中でその人らしく、穏やかに暮らしていくことが出来るようになっていた。事業所の私道を近道として利用する地域住民や学生が居ることを伺い、権利を主張したり、他者が立ち入ることを嫌ったり、自己主張ばかりが多くなった世の中で、譲り合いながら、大らかに利用させている心の広さと温かなつながりが感じられた。併設施設の老健との有機的な協力関係やあんしん相談員の協力を大切にしながら、手作りおやつや排泄の自立支援などをさらに充実して、理念である「利用者が事業所を自らの生活の場であると実感出来るケア」を実現すべく、さらなる工夫を重ねることを望みます。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1階)		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(2階)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自らの生活の場であると実感できるようなケアを目指している。	自らの役割を持つことにより、自信を回復すると共に事業所が自らの生活の場であると感じられるようケアしていくことを目指した事業所独自の理念を掲げ、月1回のスタッフ会議で職員への共有化を図ると共に実践につなげ、毎月発行するたよりに掲載して広報している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加やグループホームで開催する夏祭りを地域住民と交流する場として参加頂いている。	事業所前の私道が近隣住民や学生の近道として活用されており、日常的な交流の機会となっている。地域行事への参加、事業所行事への招待、ボランティアや実習生の受け入れなど地域と親しくつきあいながらの暮らし作りに取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	シニアクラブの方々と交流し、新聞作りを共にやったり認知症の人の理解を深めて頂ける様、もんぜんプラザで開催する講座で地域の方に発進している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議が行われている。地域の方からの意見を取り入れて今後活かしていく。	年6回開催、委員の構成、議題、双方向的会議進行と充実した運営推進会議となっていた。会議にふさわしくない議題が一部見受けられたので、議題の選定への配慮を望みます。	運営推進会議が、同経営の別のグループホームと合同開催となっているが、家族や議題等が異なり、基準省令等を考慮しても、事業所独自の会議となるよう工夫し、記録も公表することが求められる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回あんしん相談員の派遣がある。運営推進会議等で地域包括センターの職員や市の職員の方の参加の中で実状を理解して頂ける話し合いをしている。	事業所の行事への参加を頂いたり、運営推進会議の折に事業所の実情を理解して頂けるよう話し合いをしている。月1回あんしん相談員の訪問があり、利用者の声の代弁者となるなど、市との協力関係を築くよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中で、具体的にどのような事が身体拘束に当たるのか話し合ったり、拘束をしないケアを目指している。	拘束排除の方針やマニュアルがあり、拘束しないケアについての職員の意識の共有化は出来ている。玄関の施錠はなく、見守りや連携プレーを充実させて、抑圧感のない暮らしができるよう支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設している老人保健施設の中に「拘束委員会」があり、学ぶ機会を持ったり日常的な話し合いの中で注意を払っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学ぶ機会もあり、現在利用者の中にも2名、その制度を利用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に充分理解して頂けるよう時間をかけて説明し面談を重ね、話し合えるように対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情対応の窓口を載せている。面会時にも家族とコミュニケーションをとり、意見・要望を気軽に出来るように努めている。	ご家族の満足度調査を実施したり、面会時にコミュニケーションを取ったり、年4回の家族会の実施、毎月発送するたよりや生活記録など、ご家族の不安や不信を取り除く工夫をし、信頼関係を築くよう取り組んでいる。意見箱もあるが、直接、意見や思いを話すケースが多いことを伺った。	家族会の開催については、運営推進会議との同日開催などの工夫をして、出席されるご家族の負担等に配慮されることを期待します。又、ご家族だけの話し合いの場を設けて、ご家族だから分かる話などをすることも、気持ちを和らげる良い機会になると思われる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を月1度設け、その中でスタッフの意見や提案を聞いたり、日々のケアの中でも変化があれば、その場で話し合いを持つように努めている。	月1回のスタッフ会議の場や、日々の介護の中で職員の意見や提案を聞いたり、話し合ったりしている。又、現場職員の悩みの相談役を決めてるなど、職員が自らの思いを気軽に言える環境作りに努めている。	

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の見直しや各自の役割等はその都度、代表者の会議で改善や提案をし、職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修もあり、段階に応じた育成の取り組みを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと情報交換したり、北信の圏域の会議に参加し、サービスの質の向上の取り組みをしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とのお茶飲みや入浴時の発言を大切なコミュニケーションの場として、信頼関係を築きながら困っている事、要望等を聞けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で十分に話し合ったり、要望や困っている事をアセスメントできるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けながらアセスメントをし、求めているサービスが何であるかを見極めながらグループホームでなければ他の施設利用のご案内にも努めている。		

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす中で支えあったり学んだり、共に何かをすることで笑ったり、楽しい時間を共有している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの案内をし一緒に参加してもらうなど交流を深めたり、家族が畑に花を植えて本人との絆を築いてくれることもしてくれる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や兄弟・親戚等が面会に来ている。お墓参りや外出・外泊をしている。	ご家族が、兄弟や親せき、友人を連れて来てくれたり、ご家族による墓参りなどの外出や外泊の協力、事業所での電話の取り次ぎ、年賀状作成の支援など、これまでの関わりや暮らしの継続が維持していけるよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事参加や散歩などでさり気なく仲間作りが出来るよう支援している。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣の老人保健施設に入所されたり他施設に入所されても、本人に会いに行ったり又家族が懐かしいと尋ねて来てくれたり経過を伝えてくれたりもしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「個別援助計画」の作成を取り入れ、生活の中から望む暮らしに近づけるよう取り組んでいる。	個別援助計画を作成して利用者の思いや意向を把握し、日々の生活の中でも話す一言一言を大切に、表情や動作からも汲み取り、利用者がどのように暮らすことが最良なのかを把握するよう取り組んでいる。又、あんしん相談員からの情報も貴重な意見として受け止めている。	

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期のアセスメントで個々の生活歴や生活環境等々をお聴きしスタッフと共に情報を共有したり、日々の会話の中から知り得ることを大切にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や年齢体力に応じ散歩に行ったり、居室で過ごしたりしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門職の方からアドバイスを頂いたり参加までには至りませんが、家族と共に話し合い介護計画を作成している。	センター方式を活用した様式で基本・暮らし・心身の情報を把握して、利用者がその人らしく暮らし続けるための介護計画を作成している。月1回の全職員参加のケアプラン会議で設定期間(3か月)ごとの見直しを行い、心身の状況の変化に応じて臨機応変の見直しも行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りの中でやってみた事や気付いた事を話し合ったりケース記録を通して情報を共有しながら実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所サービスを取り入れた際には、家族に代わりに病院に行く事もある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内にプチカフェができ、生活の幅が広がり、楽しみの持てる日常があり支援している。		

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族、本人等の希望を聞き主治医を決めていくが、実際には同法人の医師を主治医としている方が多い。日々医師と連携を図り受診や適切な医療を受けられるよう努めている。</p>	<p>利用者のご家族の了解を得て、事業所の協力医療機関の医師がかかりつけ医となっている。2週間に1度の往診、半年に1回の検査、週1回の訪問看護師の体調管理、日々医師との連携を図るなど適切な医療を受けられるよう支援され、医療面で、利用者やご家族からの安心を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師が週1回、体調の管理。緊急時や不調時にはすぐ対応して頂き、間に合わない場合は隣に併設されている看護師に応援体制をとっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には必ず職員が付き添い、状態や情報提供を行い更にお見舞いに行き途中経過や状態の把握に努め、退院後の相談に乗っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>個々の家族と面会時や体調不調時に話し合いを持ち、家族や本人の気持ちなど、今後の事を話し合っている。</p>	<p>重度化した場合や終末期になった場合の事業所としての基本的対応指針があり、その指針に対する同意を得ている。事態が生じた場合は、ご家族と十分に話し合い、かかりつけ医の判断を仰ぎながら対応指針に沿って重度化や終末期への支援をしている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>すべての職員が把握できるように研修を行い、日々のケアの中でもヒヤリハット等々があった時に話し合いを持っているが、更に実践力が身に付くように努めていきたい。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を実施したり、地域消防団の方にも推進会議に出席を頂いて協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の併設施設合同の防災訓練を消防署の協力を得て実施し全職員が1度は参加できるよう配慮している。自動通報装置、消火器等の防災設備や隣接する老健等の協力体制は整っているが、地域住民や消防団の訓練参加などの協力関係は出来ていない。</p>	<p>夜間の災害対応が一番不安であり、2階に1ユニットあるので夜間想定の実業所独自の避難訓練を行うことを期待します。さらに災害対応のイメージトレーニングを頻度よく実施し、手順よく行動できるよう訓練することを望みます。地域との協力関係は早期に実現できるよう対応することを期待します。</p>

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時に本人のプライドを傷つけないような声かけや誘導を心がけている。	利用者の尊厳や誇りを大切にして、利用者で出来ることは利用者によっていただくよう支援している。個人情報の保護やプライバシーの確保についてはマニュアルなどで共有化を図っているが、個人の書類は、保管庫に収納するなどの配慮を望みます。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の新聞読みの中から情報提供し、話題作りの中から思いや希望を聞いたり、自己決定できるような雰囲気作りを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた日常ではないが、流れに乗った生活の中で気分や体調に合わせた生活が送れ、自分のペースで一日が送れるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近くの美容院に行ったり、外出時に好きな服を選んでもらったりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には場所を変え野外で食事をしたり、一緒に食事作りの準備や畑で採れたものを収穫する喜びの中から食事を楽しむ支援をしている。	調理から食器拭きまで、利用者の出来る範囲で職員と一緒にやっている。季節に合わせたおはぎ・柏もち作りやおやき・こらせんべいなどの手作りおやつに力を入れている。畑で採れた野菜などを活用して馴染みのある食事となるよう工夫している。献立は併設老健の栄養士の指導を得ている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録があり、水分量も補給不足な方には好みの物やゼリーにしたり工夫しながら摂取できるよう支援している。		

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアと義歯の洗浄に努め夜は義歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立にむけて一人でトイレに行けるよう工夫して支援したり、排泄チェック表を付けトイレ誘導をして失敗をなくすように努めており、日中は布パンツで過ごすように支援している。	排泄パターンを把握して、声掛けやトイレ誘導を行い、生きる意欲や自信の回復となるトイレでの排泄に向けた支援を行っている。便失禁の多い利用者が1年掛かってリハビリパンツから布パンツで過ごせるようになった経験があり、日々布パンツで過ごせるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に心がけたり、筋力体操・散歩など適度な運動を促している。 健康チェック表で排便の確認を行い、必要に応じた排便の対応を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事の都合で入浴日や時間帯が限られてしまう事もあるが、体調に合わせてたり仲の良い方との楽しみの場になるように支援している。	1階は月・水・金、2階は火・木・土曜日の午後、1人週3回入浴している。入浴日でない日も他の階の浴室を利用できるようになっているが、現状としては利用はない。仲間同士で入浴したり、菖蒲湯やゆず湯などの季節を味わえる入浴もあり、楽しみながら入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や様子観察しながら休息をして頂いたり、日中の活動や適度な運動で安眠が出来るよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が知り得ていることまでは至らず今後、情報共有しながら理解を深め支援体制の強化に努めたい。		

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々のできる役割作りの支援や好きな事や楽しみを知り生活の生活の意欲につながるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によってお花見やドライブ外食に行ったり敷地内にあるカフェにお茶を飲みに行くなど、家族の協力のもと、外泊したりもする。	事業所周辺が田畑、果樹園などであり、大きな道路からも離れているので日常的に安心して散歩出来る環境であり、散歩途中におすそ分けを頂くこともある。敷地内のプチカフェ外出、花見・七夕飾り見物・ドライブなど戸外に出掛け、気分転換や五感の刺激を得られるよう取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している人はいないが必要ならば本人と出掛け買物をした後、お金を渡し清算したり計算の仕方等をして支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文章や字を書くのを嫌がる人がいるが年賀状作成の支援や電話の取り次ぎを支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下は季節感を採り入れて貼り絵や習字を飾り明るく楽しく過ごせるように工夫している。	居間・食堂・台所が一体のフロアとなり、調理の音や匂いが感じられ、採光も良く、壁には利用者の作品である貼り絵や習字が飾られ、利用度は少ないが畳の間も設けられ、家庭的で、落ち着きを感じさせる、居心地の良い空間になっていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にソファを置いたり畳コーナー等で思い思いに過ごせるように工夫している。		

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が自宅や家族を忘れないようにと部屋に写真を置いたり思い出の品物を持ってきてくれたりもするが、本人と話し合いで居室の工夫をする支援をしている。	事業所で準備したベッド・タンス以外は、寝具・家具など利用者ご家族で思い思いに、その人らしく馴染みながら暮らせる部屋作りをしていた。居室の外を取り巻く塀が若干高く一部視界を遮っているが、田畑・山々が眺められ、これまでの暮らしが継続している雰囲気が感じられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に個別の表示をしたり配膳用のお盆に名前や絵で見てわかる工夫をしたり、個別に必要なならばマットを敷き詰めたりして支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自らの生活の場であると実感できるようなケアを目指している。	自らの役割を持つことにより、自信を回復すると共に事業所が自らの生活の場であると感じられるようケアしていくことを目指した事業所独自の理念を掲げ、月1回のスタッフ会議で職員への共有化を図ると共に実践につなげ、毎月発行するたよりに掲載して広報している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加やグループホームで開催する夏祭りを地域住民と交流する場として参加頂いている。	事業所前の私道が近隣住民や学生の近道として活用されており、日常的な交流の機会となっている。地域行事への参加、事業所行事への招待、ボランティアや実習生の受け入れなど地域と親しくつきあいながらの暮らし作りに取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一人暮らしのお年寄りが気軽に立ち寄れるような場になればと、民生委員さんにもお話をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議が行われている。地域の方からの意見を取り入れて今後活かしていく。	年6回開催、委員の構成、議題、双方向的会議進行と充実した運営推進会議となっていた。会議にふさわしくない議題が一部見受けられたので、議題の選定への配慮を望みます。	運営推進会議が、同経営の別のグループホームと合同開催となっているが、家族や議題等が異なり、基準省令等を考慮しても、事業所独自の会議となるよう工夫し、記録も公表することが求められる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただき、実状を理解している。又ホームの行事にも参加を頂いている。	事業所の行事への参加を頂いたり、運営推進会議の折に事業所の実情を理解して頂けるよう話し合いをしている。月1回あんしん相談員の訪問があり、利用者の声の代弁者となるなど、市との協力関係を築くよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目指し実践している。	拘束排除の方針やマニュアルがあり、拘束しないケアについての職員の意識の共有化は出来ている。玄関の施錠はなく、見守りや連携プレーを充実させて、抑圧感のない暮らしができるよう支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で具体的にどのような事が虐待になるのか、話し合い防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学ぶ機会もあり、現在利用者の中にも2名、その制度を利用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に充分理解して頂けるよう、時間をかけて説明し面談を重ね、話し合えるように対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情対応の窓口を載せている。面会時にも家族とコミュニケーションをとり、意見・要望を気軽に出来るように努めている。	ご家族の満足度調査を実施したり、面会時にコミュニケーションを取ったり、年4回の家族会の実施、毎月発送するたよりや生活記録など、ご家族の不安や不信を取り除く工夫をし、信頼関係を築くよう取り組んでいる。意見箱もあるが、直接、意見や思いを話すケースが多いことを伺った。	家族会の開催については、運営推進会議との同日開催などの工夫をして、出席されるご家族の負担等に配慮されることを期待します。又、ご家族だけの話し合いの場を設けて、ご家族だから分かる話などをすることも、気持ちを和らげる良い機会になると思われる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンス時、スタッフの意見や提案を聞き、運営に反映させるよう努めている。	月1回のスタッフ会議の場や、日々の介護の中で職員の意見や提案を聞いたり、話し合ったりしている。又、現場職員の悩みの相談役を決めてるなど、職員が自らの思いを気軽に言える環境作りに努めている。	

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれが役割を持ち、責任を持って実践している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できる研修は、勤務状況を見ながら段階に応じて全員が受けられるように配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺グループホームネットに参加し、他のホームがどのように運営されているか、意見を聞いたり悩みを相談している。勉強会も企画されている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談時に話しをよく聞き、話す一言一言を大切に表情や動作など観察を行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で十分に話し合ったり、要望や困っている事をアセスメントできるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けながらアセスメントをし、求めているサービスが何であるか、見極めながら対応するよう心がけている。		

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす中で支えあったり学んだり共に何かをすることで笑ったり、楽しい時間を共有している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの案内をし一緒に参加してもらうなど交流を深め、今後も一緒に本人を支えていく姿勢を大切にしている。又、家族との外出も支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚など面会に来ている。外出・外泊時は情報の提出の提供を助言などの支援を行っている。	ご家族が、兄弟や親せき、友人を連れて来てくれたり、ご家族による墓参りなどの外出や外泊の協力、事業所での電話の取り次ぎ、年賀状作成の支援など、これまでの関わりや暮らしの継続が維持していけるよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩の時など一緒に歩いていただき、話す機会になれば良いと思い支援している。又、ホームの中で形成された人間関係を大切に考えている。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣の老人保健施設に入所されたり、他施設に入所されても本人に会いに行ったり、又家族が懐かしいと尋ねて来てくれたり経過を伝えてくれたりもしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活から望む暮らしに寄り添えるように取り組んでいる。ケアプラン会議の時にも話し合っている。	個別援助計画を作成して利用者の思いや意向を把握し、日々の生活の中でも話す一言一言を大切に、表情や動作からも汲み取り、利用者がどのように暮らすことが最良なのかを把握するよう取り組んでいる。又、あんしん相談員からの情報も貴重な意見として受け止めている。	

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に生活歴・生活環境などの情報収集をし、家族との面談でも生活の様子などの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること出来ないことを把握し、一日の流れを無理のない範囲で支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望、本人の意向などを大切に、カンファレンスを行いながら作成している。	センター方式を活用した様式で基本・暮らし・心身の情報を把握して、利用者がその人らしく暮らし続けるための介護計画を作成している。月1回の全職員参加のケアプラン会議で設定期間(3か月)ごとの見直しを行い、心身の状況の変化に応じて臨機応変の見直しも行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りの中でやってみたい事や気付いた事を話し合ったり、ケース記録を通して情報を共有しながら実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時には家族に代わり病院に行ったり、隣接する老人保健施設の理学療法士や看護師にもアドバイスを頂いている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議のメンバーに民生委員や消防の方もおり、必要に応じて協力を得ている。		

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同法人の医師を主治医としている。家族も納得している。日々医師と連携を図り、定期的な受診や適切な医療を受けられるよう努めている。</p>	<p>利用者のご家族の了解を得て、事業所の協力医療機関の医師がかかりつけ医となっている。2週間に1度の往診、半年に1回の検査、週1回の訪問看護師の体調管理、日々医師との連携を図るなど適切な医療を受けられるよう支援され、医療面で、利用者やご家族からの安心を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師が週1回、体調の管理。緊急時や不調時にはすぐ対応して頂き、間に合わない場合は、隣に併設されている看護師に応援体制をとっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には情報提供を必ず行い、状態や生活の様子がわかるようにしている。又途中経過の状態や情報の把握に努め退院後の相談にのっている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合、家族に早い段階から説明し、十分な話し合いを持ち慎重に検討し希望を受け入れられるよう努めている。</p>	<p>重度化した場合や終末期になった場合の事業所としての基本的対応指針があり、その指針に対する同意を得ている。事態が生じた場合は、ご家族と十分に話し合い、かかりつけ医の判断を仰ぎながら対応指針に沿って重度化や終末期への支援をしている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>すべての職員が把握できるように研修を行い、日々のケアの中でもヒヤリハット等々があった時に話し合いを持っているが、更に実践力が身に付くように努めていきたい。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を実施したり、地域消防団の方にも推進会議に出席を頂いて、協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の併設施設合同の防災訓練を消防署の協力を得て実施し全職員が1度は参加できるよう配慮している。自動通報装置、消火器等の防災設備や隣接する老健等の協力体制は整っているが、地域住民や消防団の訓練参加などの協力関係は出来ていない。</p>	<p>夜間の災害対応が一番不安であり、2階に1ユニットあるので夜間想定の実業所独自の避難訓練を行うことを期待します。さらに災害対応のイメージトレーニングを頻度よく実施し、手順よく行動できるよう訓練することを望みます。地域との協力関係は早期に実現できるよう対応することを期待します。</p>

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応にプライバシーを守り、個々の人格を尊重した対応を心がけている。	利用者の尊厳や誇りを大切にして、利用者で出来ることは利用者によっていただくよう支援している。個人情報の保護やプライバシーの確保についてはマニュアルなどで共有化を図っているが、個人の書類は、保管庫に収納するなどの配慮を望みます。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で自分の意見が言えるように環境づくりに努めている。先回りの声かけやケアではなく、自己決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースを守り生活をしている方が多く、日頃の生活パターンを大切にしていけるよう、又充実感が得られる暮らしの支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ビューティーボランティアさんが見え、顔そりやお化粧品をして頂いている。希望により近くの美容師さんに来所して頂いている。髪染めを希望される入居者の方には入浴時に染髪することもある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫できた食材の下ごしらえや季節ごとの食催事、お団子作り、おはぎ作りなどそれぞれが作れるよう支援している。	調理から食器拭きまで、利用者の出来る範囲で職員と一緒にやっている。季節に合わせたおはぎ・柏もち作りやおやき・こらせんべいなどの手作りおやつに力を入れている。畑で採れた野菜などを活用して馴染みのある食事となるよう工夫している。献立は併設老健の栄養士の指導を得ている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量の記録や体調に合わせた摂取量、水分量も把握しながら健康で過ごせるように支援している。		

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じて口腔ケアを行っている。夜は義歯洗浄を使用している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間に応じて声かけやトイレ誘導を行っている。失敗の多い人にはチェック表の記入により、対策も相談して行っている。自尊心を傷つけないように心がけている。	排泄パターンを把握して、声掛けやトイレ誘導を行い、生きる意欲や自信の回復となるトイレでの排泄に向けた支援を行っている。便失禁の多い利用者が1年掛かってリハビリパンツから布パンツで過ごせるようになった経験があり、日々布パンツで過ごせるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のストレッチ体操や散歩など適度な運動を心がけ、水分摂取も促している。健康チェック表にて排便の確認を行い、必要に応じて医師に相談して対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間が限られてしまうことがあるが、気分やタイミングを常に考え、気持ちよく入浴できるように支援している。又、好みも常に考えている。	1階は月・水・金、2階は火・木・土曜日の午後、1人週3回入浴している。入浴日でない日でも他の階の浴室を利用できるようになっているが、現状としては利用はない。仲間同士で入浴したり、菖蒲湯やゆず湯などの季節を味わえる入浴もあり、楽しみながら入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の観察を行い、日中の活動や適度な運動で安眠できるように支援している。寝具は一週間ごとに交換を行い、清潔を保っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が知り得ているとまでは至らず、今後は情報の共有をしながら理解を深め、支援体制の強化に努めたい。		

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々の出来る役割作りの支援や好きな事や楽しみを知り、生活の意欲につながるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと、外出などの支援を行っている。季節によって花見やドライブ・外出に行くなどの支援を行っている。	事業所周辺が田畑、果樹園などであり、大きな道路からも離れているので日常的に安心して散歩出来る環境であり、散歩途中におすそ分けを頂くこともある。敷地内のプチカフェ外出、花見・七夕飾り見物・ドライブなど戸外に出掛け、気分転換や五感の刺激を得られるよう取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している人はいないが、家族よりお預かりしているお金があるので、必要に応じて買物と一緒に掛付け、自分で選んでいただくよう意思決定を促している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけた時、又かかってきた時には取り次ぐ支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下は季節感を取り入れ、共同製作の貼り絵などを飾り、明るく楽しく過ごせるように工夫している。	居間・食堂・台所が一体のフロアとなり、調理の音や匂いが感じられ、採光も良く、壁には利用者の作品である貼り絵や習字が飾られ、利用度は少ないが畳の間も設けられ、家庭的で、落ち着きを感じさせる、居心地の良い空間になっていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室では縫い物をしたり、ソファでは仲の良い人達と話しが出来るように設置されている。		

外部評価結果(グループホームコスモス長野)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が馴染みの家具や写真などを持ち込み安心して過ごせるよう工夫している。必要に応じて家族に持ってきてもらっている。	事業所で準備したベッド・タンス以外は、寝具・家具など利用者ご家族で思い思いに、その人らしく馴染みながら暮らせる部屋作りをしていた。居室の外を取り巻く塀が若干高く一部視界を遮っているが、田畑・山々が眺められ、これまでの暮らしが継続している雰囲気が感じられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に個別の表示をしたり、配膳用のお盆に名前や絵で見てわかるように工夫している。		